まちかど人間録

ゴスペル・シンガー

文屋範奈さん（43）＝堺市南区

「ゴスペルは心をつなぐ役割」

「人間は泣きたいときに泣けないし、喜びたいときに喜べないことがある。そんな感情を歌は代弁してくれます」

人懐っこい笑顔と情熱的な関西弁で語っていたかと思うと、不意に体全体でリズムを取り、ゴスペルを歌い始める。

「ゴスペルは米国の黒人たちが教会に集い、悲しみと、それを乗り越えて得た喜びや感謝の気持ちを表した歌。苦しい生活を強いられた人たちが励まし合い、心をつなぐ役割を果たしてきたんです」

そう語る自身も、ゴスペルに救われた一人だ。

高校卒業後、米国の大学に留学。ボスニアの内戦から逃れてきた難民の保護活動に参加し、人権問題や平和活動に関心を持った。

日本へ帰国後、大学院で安全保障を学ぼうと再び渡米。学業と仕事の両立を目指したが、厳しい競争社会の中で自律神経失調症を患い、身も心もボロボロの状態で帰国。半年間の自宅静養を余儀なくされた。

「世界平和を考えて大学院に入ったのに、自分すら幸せになれない…」。そんな惨めな気持ちのとき、「自分に素直になれるように」と音楽家の父親が勧めてくれたのがゴスペルだった。

平成11年にシンガーとして活動を開始。欧米も含めた国内外のステージやメディア、学校現場など活躍の場を広げているが、テーマは一貫して「心の平和」。かつて米国で学んだ国家の安全保障だけでなく、自分も含めた、そこに暮らす人たちの「人間の安全保障」が不可欠と考えている。

来年3月には、ニューヨーク5番街で開催される「セントパトリックデー・パレード」に、日本から初めて代表グループとして招待された。

カーネギーホールで開かれる日米親善コンサートにも出演が決定。関西を中心とするバックコーラス隊員約30人を現在募集中で、11月から府内などで事前練習を始める予定だ。

「春を迎えるお祭りなので、明るい曲を選びたい。関西のノリも演出に取り入れ、沿道の人たちと楽しく一緒に思いっきり弾け、喜びを分かち合いたい」

（守田順一）

ぶんや・はんな 芸名・Hanna（ハンナ）。堺市出身。国内外でのライブ活動のほか、ゴスペルのワークショップ講師や、ゴスペルの歴史に歌をまじえた学校や各種団体向けの人権・平和講演の活動にも取り組む。バックコーラス隊員募集の問い合わせは、エムセックインターナショナル音楽文化交流事務局（☎03・3406・1122）。

おおさか